

I 平成29年度「心の教育振興会議」提言

『特別の教科 道徳』に向けて求められる指導法改善Ⅱ
～考え、議論する道徳への転換を図る授業改善と評価～

「県心の教育振興会議」は、「県学校道徳教育振興会議」として昭和62年に発足し、平成9年度の改称を経ながら、本県における道徳教育の在り方についての議論と検討を重ね、これまで毎年提言を行ってきました。

提言については、冊子として各学校に配布され、教職員研修や保護者啓発のための参考資料として、また、「道徳の時間」の指導資料等として活用されてきました。

本年度は、『特別の教科 道徳』に向けて求められる指導法改善Ⅱ～考え、議論する道徳への転換を図る授業改善と評価～」をテーマとした協議と、そこで提示された改善の方向を踏まえて検討を行い、委員の方々の実践を通して、具体的な指導事例の形で提示することにしました。

本年度の「心の教育振興会議」においては、次の委員の協力を得ています。（順不同）

假屋園 昭彦 委員	鹿児島大学教育学部 教授
田 實 澄 恵 委員	県 P T A 連 合 会 副会長
神 田 之 弘 委員	鹿児島市立南小学校 校長
西 哲 也 委員	鹿児島市立喜入中学校 校長
橋 口 俊 一 委員	県 総 合 教 育 セ ン タ ー 教科教育研修課研究主事 (現 鹿児島市立広木小学校 校長)
永 里 智 宏 委員	南さつま市教育委員会 学校教育係長
益 満 陽 平 委員	始良市教育委員会 主任主査兼指導主事
吉 永 秀 和 委員	志布志市教育委員会 参事兼指導主事
京 田 憲 子 委員	鹿児島市立錦江台小学校 教諭
所 崎 陽 委員	南さつま市立加世田小学校 教諭
池 下 龍 郎 委員	始良市立松原なぎさ小学校 教諭
別 府 亮 太 委員	志布志市立通山小学校 教諭
杉 尾 拓 郎 委員	志布志市立松山小学校 教諭
松 田 綾 子 委員	鹿児島市立鴨池中学校 教諭
白 田 真 澄 委員	長島町立鷹巣中学校 教諭

道徳の教科化への期待

鹿児島大学教職大学院 教授 假屋園昭彦

鹿児島県心の教育振興会議では、毎年、道徳教育についての提言を行ってきました。平成29年度は、「道徳科の指導と評価について」というテーマで提言を行います。その趣旨は以下のとおりです。

道徳の教科化に際しては、先生方の中で評価の問題が注目されるようになりました。「評価はどうしたらよいのか」という先生方の声が数多く聞かれるようになったのです。そこで本年度は、こうした先生方の声に応える意味で評価の問題を扱うことになりました。

道徳科における評価の問題を扱うことは、「評価とは何か」という評価の原点を考えるよい機会になるでしょう。

そこで、「評価とは何か」という問題を、評価の原点に立ち戻って考えてみます。教科化に際して、先生方の声を聞いてみますと、評価という言葉が独り歩きしているような印象を受けます。しかし、評価は評価だけを単独で論じることはできません。あくまでも評価は指導と一体的な関係の中で論じる必要があります。そのうえで、「道徳の場合、指導と評価はどのような関係にあるのか」、「何のための評価なのか」、「教科の特性を踏まえるならば、何をどう評価するのが妥当なのか」を考えていけばよいのです。そして、こうした面については、平成29年6月、7月発行の小学校および中学校の「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（文部科学省）に記載があります。

これまで道徳の時間は、評価を指導要録等に記入することがありませんでした。「評価がある場合の指導」と「評価をしなくてもよい場合の指導」とでは、当然、指導のあり方が変わってくるでしょう。この点を考えると教科化の趣旨もおのずと明らかになると思われまます。すなわち、教科になり、評価が導入されることの趣旨の一つは、指導の充実にあると言えるのではないのでしょうか。指導を充実させるならば、指導と連動した評価のあり方もおのずと浮かび上がってくると思われまます。

こうした背景のもと、本年度の心の教育振興会議での提言をまとめた「道徳教育の充実に向けて」という本冊子では、指導と評価に関する事例、評価のポイント、質疑例といった具体的な面に焦点をあてています。このことは、本冊子が先生方の日頃の実践にできるだけ貢献しうる内容になることを意図していることに基づきます。

道徳の実践に取り組んでおられる先生方におかれましては、ぜひ本冊子をご覧いただき、内容を御自身で咀嚼し、そのうえで、御自身なりの実践に活かしていただくことを期待いたします。

「特別の教科 道徳（道徳科）」への期待

鹿児島市立南小学校 校長 神田 之弘

昭和33年に始まった道徳の時間が、還暦を迎えると同時に、道徳科として本格実施されます。「道徳の教科化」は、グローバル化の進展と科学技術の進歩、児童生徒の自己肯定感の低さやいじめ問題への本質的な解決、道徳教育の実施状況等を背景に、道徳教育の実質化と質的転換を図ることを目的とした大改革と言えます。中でも、いじめや自己肯定感の問題は、本県の児童生徒においても喫緊の課題となっていることから、道徳科の指導と評価の充実には、大きな期待が寄せられています。

平成28年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、本県におけるいじめの認知件数は、小学校3,935件、中学校1,345件です。全校種の合計で、前年度より微減しているようですが、依然として一校当たり小学校7.6件、中学校5.8件のいじめが発生していることとなります。一方、平成29年度全国学力・学習状況調査によると、小学6年生の96.4% (+0.3)^{*}と、中学3年生の94.4% (+1.6)^{*}が、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」と回答しています。よい事だと分かっているも行えず、よくない事だと知りながらもついしてしまうという人間らしさが如実に表れた結果と言えます。（※は、全国比）

そこで、いじめ問題への本質的な問題解決を図るためには、児童生徒に自分自身の問題として受け止めさせ、内面的に自覚させていく指導が求められます。

実際には、例えば「なぜ、いじめはしてはいけないのか。いじめはしてはいけないと分かっているも、なぜ、いじめは起きるのか。いじめを止められないときがあるのはなぜか。いじめを防いだり、解決したりするには、どうすればよいのか。いじめがもたらす結果について、どのように向き合っていけばいいのか。」等、道徳的な思考を深め道徳的価値と実践とをつなぐための方法知も取り入れながら、自分ならどのように考え、どのように行動するかについて、児童生徒に正面から問うことが大切です。それは、児童生徒が、自分はどうすべきで、自分に何ができるのかを判断できるようになったとき、正しいことを主体的に実践できる力が高まっていくと考えるからです。

いじめに関する具体的な事例をもとに、児童生徒が「考え、議論する」道徳科授業の地道な積み上げが、いじめ防止に効果をもたらしていくことを期待しています。

平成29年度全国学力・学習状況調査において、鹿児島県の小中学生は、全国の児童生徒と比較して「規範意識が高く、社会参画に対する関心・意欲も高い。」という分析結果が出されました。「規範意識が高い児童生徒ほど、自己肯定感が高い傾向にある。」という28年度の国の分析結果に当てはめると、本県児童生徒の自己肯定感が高い傾向にあることが推測されます。

一方、平成29年度の同調査からは、「人の役に立ちたいという思いは強いが、自己有用感につながりきっていない。」という県の分析結果も出されました。「自己有用感が高い児童生徒ほど、自己肯定感が高い傾向にある。」という28年度の国の分析結果にあてはめると、自己有用感を高める意図的な取組が必要です。

自己有用感とは、自分の属する集団の中で自己の存在を価値あるものとして受け止める感覚です。そして、人の役に立っている、人から感謝されている、人から認められている等の感覚は、他者との交流の中で、自他共に肯定的に受け入れられることではぐくまれていくものです。学校では、これまでの道徳教育の評価に加えて、道徳科でも評価が行われます。そこでは、児童生徒の成長を積極的に受け止め、児童生徒の基準に沿って「認め、励ます」ことが求められています。それぞれの評価が、受容的・共感的・支持的な集団の中で組織的・計画的・多面的に行われていくことにより、児童生徒の自己有用感と自己肯定感が確実に高まっていくことを期待しています。

「特別の教科 道徳（道徳科）」への期待

喜入中学校 校長 西 哲也

今回の学習指導要領の改訂において、「特別の教科 道徳」（以下道徳科）が新設されることは、昭和33年の「道徳の時間」の特設以来の大きな変革である。その経緯としては、他教科に比べて教師の意識が低いこと、読み物資料の登場人物の心情理解にのみ偏った形式的な指導が行われているのではないかという指摘、いじめ問題等を含め生徒をとりまく諸問題や社会の多様な問題について考えさせる授業の充実などがあげられている。

各中学校では、平成31年度からの全面実施に向け、すでに準備が進められていることと思う。教科化の推進に当たって、「評価をどうするのか」「これまでの授業をどう改善すればいいのか」など不安を感じている教師も多いのではないかと思う。

評価については、戸惑いの声も聞かれるが、評価をすることにより1単位時間の授業の目標をこれまで以上に教師一人一人が明確にし、確実に把握した上で授業に臨む必要がある、このことが授業改善につながるのではないかと期待される。また道徳科の評価は、道徳性を評価するのではなく学習状況つまり学びの様子を見取ることになる。そのためには、どのような学習活動を取り入れるか、評価につなげるためのワークシートはどのようなものがよいかなど授業づくりについての研修もさらに深まるものと思われる。

指導法については、道徳科においても「主体的・対話的で深い学び」が基本となる。具体的には「問題解決的な学習」や「体験的な学習」など多様な指導法を取り入れることも効果的である。体験的な学習では、学校行事等で体験した事柄を授業に生かすことが考えられる。学校で計画的に実施する体験活動は、全生徒で共有することができるため生徒の問題意識を高めて学習に取り組ませることが可能になる。また、役割演技や動作化を取り入れることで登場人物に自我関与させ、自分はどうか考えるか、なぜそう判断したのか考えを伝え合うことで、さらに自分の考えを深めていくことができる。このような場面を意図的に取り入れることが、対話的で深い学びにつながると考える。

周知の通り、道徳科は道徳教育充実のため学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の「要」であり、他教科・領域との関連を図ることが一層明確に示されている。全教育活動を通して意図的・計画的に指導するという原則に立てば、指導計画の別葉が必要とされるのも当然のことであり、実効性のある別葉を全職員で作成することが必要である。以前、スマホの使い方を題材としながら「思いやり」を主題にした授業を参観した。総合的な学習の時間や学級活動で実施した情報モラルの授業との関連を図りながら、アンケート結果をもとに、身近な生活の中で起こっている問題を共有した後、「人と人がつながるために大切なことは何だろう」という学習問題に繋げていた。学習指導案には「教科・領域等との関連」が構造的に示されており指導者の指導観と道徳教育への関わりがよく伝わった。このような工夫は、今後さらに広がることと思われる。

また今回、生命や人権、自然環境の保全など「現代的な課題」についても取り上げることが示されている。これらの課題は、「答えが定まっていない」ものも多く、多様な見方や考え方ができる。そのような切実で不可避な課題だからこそ、多面的・多角的に考え、周りの意見と比較しながら自分にとっても他者にとっても、より納得できる答えを求める姿勢が大切になる。未来に生きる生徒にとって、持続可能な社会のあり方について考える機会になると思う。

今、道徳科の新設という大きな節目にある。道徳の研修講座に、これまでにないほど中学教師の受講者が増えていると聞く。この機会を道徳教育の転換点と捉え、教師の意識が高まり、生徒が「生き方について考える道徳科の授業は楽しい」と思うような実践が各学校で展開されることを期待したい。

2 考え、議論する道徳への転換を図る授業改善と評価【提言】

『特別の教科 道徳』に向けて求められる授業力Ⅱ ～考え、議論する道徳への転換を図る授業改善と評価～

1 本提言への経緯

学習指導要領の一部改正に伴い、小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から「特別の教科 道徳」が全面実施となる。平成27年度の鹿児島県心の教育振興会議においては、「特別の教科 道徳」の内容の変更点等について、Q & A形式で示した。

また、平成28年度は、「考え、議論する道徳」への転換に向けて、指導法と教師の発問が重要な役割を果たすと考え、多様な指導方法と発問の工夫について取り上げ、「特別の教科 道徳」の授業を、どのように展開していけばよいか、指導事例を通して提言してきた。

今年度は、道徳科の授業における授業改善と評価について、以下のような趣旨を踏まえ、指導事例を通して提言を行うこととした。

2 道徳科における評価の在り方

道徳科における児童の学習状況を把握し評価するためには、教師が「児童生徒の実態」、「道徳的価値」、「教材の活用」などを明確にして、「明確な意図」に基づいて道徳科の本時のねらいを具体的に設定し、指導方法の工夫、改善・充実を図っていく必要があることから、以下の点が大切になる。

- 学習指導過程における指導と評価を一体的に捉えることが重要である。
- 明確な意図をもって指導や指導方法の計画を立て、学習指導過程で期待する児童の学習を具体的な姿で表したものが観点となる。

また、道徳科の特質を踏まえれば、評価に当たって、以下の点が求められる。

- 数値による評価ではなく、記述式とすること
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- 他の児童との比較による評価ではなく、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価（児童のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童の発達の段階に応じ励ましていく評価）として行うこと
- 道徳科の学習活動における児童の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること
- 道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握は、「各教科の評定」や「出欠の記録」等とは基本的に性格が異なるものであることから、調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要がある。

3 道徳科の評価の方向性

指導要録においては当面、一人一人の児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、発言や会話、作文、ノート等を通じて、特に、道徳科の目標にも示されている、次の2つの視点を重視することが大切である。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へ発展しているか。

- ・ 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え、考えようとしている。
- ・ 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- ・ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているか。

- ・ 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- ・ 現在の自分自身を振り返り、自らの生活や考えを見直している。
- ・ 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。
- ・ 道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え、考えようとしている。

なお、評価に当たっては、毎回の授業の中ですべての児童について評価を意識して変容を見取るのは難しいため、児童が1年間書きためた感想文をファイルにしたり、年間35時間の授業という長い期間で見取ったりする等の工夫が必要である。

4 児童が行う自己評価について

児童がワークシート等を使った学習の振り返り（自己評価）を行う場合においては、次のような留意点が示されている。

児童が行う自己評価は学習活動の一環であり、教師が行う学習評価とは別であるが、教師が行う学習評価において「数値による評価は行わない」としている趣旨等を踏まえ、例えば、単に「(内容項目)についてどのくらい理解したか」ということを数値で回答させるような形ではなく、児童自身が自身のよい点や可能性等に気付いていくことを通じて、主体的に学ぶ意欲を高めることにつながるよう工夫することが望まれる（文部科学省初等中等教育局 教育課程課資料：H28.11.7から一部抜粋）。

5 発達障害等のある児童への配慮について

児童が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮が必要である。例えば、自分の考えを書くことに困難さがある児童の場合には、教師が個別に問い掛け、考えを引き出しながら書かせるなどの配慮が必要である。

【参考】

※ 「小（中）学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」

※ 「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）」（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議、平成28年7月22日）」 ほか

指導事例

小学校第1学年 教材名「おじさんの手がみ」（学研）
内容項目 C 規則の尊重

【全体計画（別業）との関連】 （補充・**深化**・統合）

- 生活科「公園で秋を探そう」：公園のきまりを守って秋を探したり，遊んだりする。
- 学校生活：廊下は，右側を静かに歩く。

【指導の明確な意図】

【児童の実態】

児童は，これまで生活科の学習できまりを守って公園で遊んだり，体育科の学習できまりを守って鬼遊びをしたりしている。しかし，周りの影響を考えられず，自己中心的な考えから廊下を走ってしまうことがある。そこで，本時では，きまりを守ることの大切さについての考えを深めさせていきたい。

【道徳的価値】

身近な約束やきまりを取り上げ，それらはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し，しっかりと守ろうとする意欲や態度を育てることが大切である。また，みんなで使う場所は物を進んで大切にし，工夫して使いたいという判断力や態度を身に付けられるように指導することが必要である。

【主題名】 きまりを守ることの大切さ

【教材の活用】

電車の中でマナーを守った小学校の子供たちに，乗り合わせたおじさんから手紙が届く教材である。電車の中での様子を疑似体験させることで，きまりを守ることの大切さについて深く考えることができる教材である。

【教師の主な発問と児童の意識】

【ねらい】

電車の中での様子を疑似体験することを通して，電車や公園などの公共の場所で必要なマナーやルールがあることに気付き，一人一人がそれを守ろうとする心情を育てる。

【中心となる学習活動において期待される児童の姿】

疑似体験を通して，周りの人への影響を考えながら，きまりを守ることの大切さについて考えている。

【評価と指導の工夫】

子供が多面的・多角的にきまりを守ることについて考えることができるようにするために，電車の中での様子の疑似体験を取り入れる。そのため，座席をコの字型に配置する。疑似体験を行う際は，空いている中央に電車のように椅子を並べ，子供たちが乗車するところから下車するところまでの一連の流れを行う。また，全員が両方の立場に立って考えることができるよう，学級を2つのグループに分けて行う。

【教師の効果的な関わり】

疑似体験を，以下のように行う。

- 1 子供たちが騒いでいる場面
 - 2 発問：周りの人は，どのような気持ちでしょう。
 - 3 発問：子供たちは，どのような気持ちでしょう。
 - 4 子供たちが静かな場面
 - 5 発問：周りの人は，どのような気持ちでしょう。
- ※ 役割の交代
1～5を繰り返した後，中心発問を行う。

【教師の主な発問と児童の意識】

	主な学習活動と教師の発問	児童の意識	○指導上の留意点 ※評価の視点に関すること
導入	1 「きまり」にはどのようなものがあるか考え、自分の生活を振り返る。 2 めあてを立てる。 ④ きまりを守るには、どのような気持ちがあればよいのだろう。	C 公園には、きまりの看板があったね。 C 他の人もしてると思って、守れないことがあるな。	○ 生活科の学習で見付けた公園のきまりの看板の写真を提示することで、身の回りがあるきまりに気付くことができるようにする。
展開	3 教材を視聴し、考える。 T おじさんに、何が起こりましたか。 T 子供たちが騒いでいるときと静かにしているときを比べて考えてみましょう。 T 子供たちが騒いでいるとき、周りの人はどのような気持ちでしょう。 T 子供たちはどのような気持ちでしょう。 T 子供たちが静かにしているとき、周りの人はどのような気持ちでしょう。 T 子供たちが静かに電車に乗ることができたのは、なぜでしょう。 4 今までの自分の体験を振り返る。	C 子供がうるさいと思っていただけ、静かだった。 C うるさいなあ。 C 静かにしてほしい。 C うれしい。 C すっきりする。 C 気持ちがいい。 C もし自分が。 C かわいそう。 C 迷惑になる。 C 人のことを考えた。	○ 子供たちが電車の中で騒いでいるときと静かなときの乗客の心情を比較させることで、きまりを守ることの大切さに気付くことができるようにする。 ○ 子供たちが電車の中で騒いでいるときの乗客の心情を問うことで、周囲への影響についても気付くことができるようにする。 ※ きまりを守ることができた理由を様々な視点から捉え、考えようとしている。(ワークシート)
終末	③ 5 教師の説話を聞く。	C きまりを守ることは、大事なんだな。	○ きまりを守ることの大切を実感する話をする。

【板書、ノート等】

自分に置き換えて考えたり、周りの人への影響を考えたりしている。
 ・おじさんはうるさかったから、かまさんしてみよう。
 ・ほかのひとにめいわくになる。

人間の弱さを理解しながら、周りの人への影響を考えたり、自分に置き換えて考えたりしている。
 ・おじさんはうるさかったから、かまさんしてみよう。
 ・おじさんはうるさかったから、かまさんしてみよう。
 ・おじさんはうるさかったから、かまさんしてみよう。
 ・おじさんはうるさかったから、かまさんしてみよう。

自分の気持ちを中心にした見方で考えている。
 ・おじさんはうるさかったから、かまさんしてみよう。
 ・おじさんはうるさかったから、かまさんしてみよう。

指導事例

小学校第3学年 教材名「絵葉書と切手」

(出典)「みんなのどうとく3年」(学研)

内容項目 B 「友情、信頼」

【全体計画(別業)との関連】(補充・**深化**・統合)

社会科「わたしたちの大好きなまち」: 友達と協力して、まちの絵地図を作る。

体育科「ハンドベースボール」: 仲間と励まし合いながら、練習やゲームをする。

【指導の明確な意図】

【児童の実態】

この期の児童は、活動範囲が広がることで、友達関係も広がってくる。社会科の絵地図作りを通して仲間と協力することの大切さに気付いたり、体育科のボールゲームを通して仲間同士励まし合う声かけの仕方を身に付けたりして、集団での活動に一層喜びを感じるようになっていく。しかし、自分の利害にこだわることで、友達とトラブルを引き起こすことも少なくない。そこで、友達の気持ちを考えて、進んでよりよい関係を築くことの大切さについて考えさせたい。

【道徳的価値】

子ども同士が、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことで、健全な仲間集団を積極的に育成していくことが大切である。そのためには、友達のよさを発見することで友達のことを理解したり、友達とのよりよい関係の在り方を考えたり、互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりすることができるように指導することが大切である。

【主題名】 本当の友だちになるために

【教材の活用】 仲のよい友達に定形外郵便の料金不足を教えるべきか否か迷う葛藤教材である。その心の様相を友達とじっくり話し合う中で、考えを比較したり、反対の立場に立って考えたりすることで、自分も信頼し合える友達関係を築いていきたいという思いを高めることができる。

【ねらい】 友達との関係づくりについて、互いに理解し合ったり助け合ったりすることについて話し合う学習活動を通して、相手の気持ちを考え、進んでよりよい関係を築こうとする態度を育てる。

【中心となる学習活動において期待される児童の意識や姿】

「本当の友達になるためには」自分ならどうするかを明確に示し、その理由を伝え合っている。

事前と本時で書いた「友達」に関する記述を比較し、自分の感じ方・考え方の変容に気付いている。

【評価と指導の工夫】

「教える」と「教えない」の両方の考えを支える意義や心構えを追求させるために、赤青円グラフを活用して、葛藤する心情を赤色と青色の割合で表せるようにし、色の割合の理由を伝え合わせる。

自分の感じ方・考え方の変容を自覚させるために、ワークシートを活用して、「本当の友達になるためには」どのような心構えを大切にすべきか書かせ、事前に行った記述と比較させる。

【教師の効果的な関わり】

○ 自分ごととしての思考

「あなたは本当の友達になれているか」と繰り返し問うことで、児童の自己内対話を促し、多様な感じ方・考え方を理解しながら、一人一人が解決方法を導き出せるようにする。

○ 学習上の困難さへの対応

自分の考えを言葉で表現することが困難な児童でも、赤青円グラフを活用することで立場を示せるようにする。

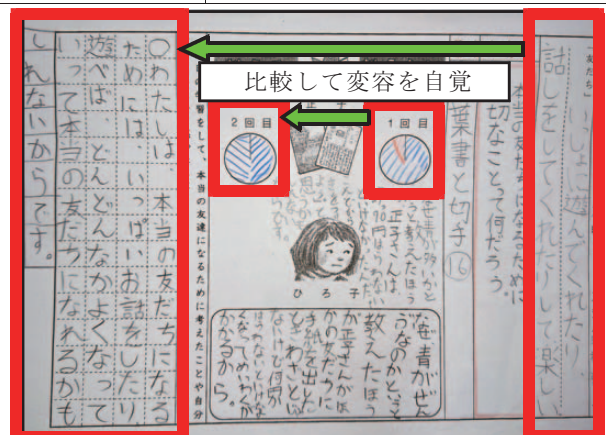
【教師の主な発問と児童の意識の流れ】

④	主な学習活動と教師の発問	児童の意識	指導上の留意点
導入 ⑤	<p>1 アンケート結果を見て、「本当の友達」についての認識を明らかにする。</p> <p>T あなたは本当の友達になれていますか。</p> <p>2 めあてを立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 本当の友達になるために大切なことは何だろうか。 </div>	<p>C 「助けてくれる」「励ましてくれる」などしてもらいたいことばかり。</p> <p>C いっしょに遊んでくれるのが友達だと思っていたな。</p> <p>C 自分は友達を助けているかな。</p>	<p>○ 「本当の友達」について問題意識をもたせるために、学習前の友達に対する考えの集計結果を提示する。</p> <p>○ 自問自答を持続させるために、何度も「本当の友達になるためには」と、問いかけていく。</p>
展開前半 ⑩	<p>3 教材文を読み，料金不足に対する行為の選択や理由について考える。〈写真1〉</p> <p>T 本当の友達として，料金不足を教えるか，教えないか，その理由は何ですか。</p> <p>4 話し合いを生かして，自分の行為の選択とその理由をワークシートに書く。</p> <p>T 本当の友達になるために，あなたならどうしますか。それはどうしてですか。</p>	<p>【教える理由】</p> <p>C 同じ間違いを繰り返してほしくない。</p> <p>【教えない理由】</p> <p>C 友達を嫌な気持ちにさせたくない。</p> <p>【ワークシート】</p> <p>C 自分の思いはきっと伝わるので，教えたい。</p> <p>C 今の時点では教えないのは，相手が傷つくことが分かるから。</p>	<p>○ 次の順序で進める。</p> <p>① 赤青円グラフを用いて，自分の考えを明確にし，それぞれの理由を考える。</p> <p>② ペアでの対話や全体の話し合いの中で，友達と色の割合の理由を伝え合う。</p> <p>③ 赤青円グラフで立場を最終決定する。</p> <p>④ 「本当の友達になるために」大切なことを二項の共通点から話し合う。</p> <p>※ 考えを赤青円グラフで表し，理由を伝えている。</p>
展開後半 ⑦	<p>5 「本当の友達になるために」大切にしたい考えや行為を具体的にワークシートに書き，事前の記述と比較して自分の感じ方・考え方の変容を自覚する。</p> <p>〈写真2〉</p>	<p>C 友達のためになることを真剣に考えて，いろいろな方法を見つけていきたい。</p> <p>C 前よりも，自分のことだけではなく，相手のことを考えている。</p>	<p>○ 「本当の友達」について広がったり深まったりした感じ方・考え方を再構成させるために，ワークシートに具体的に書かせる。</p>
終末 ②	<p>6 友達の作文の読み聞かせを聞いて，実践意欲を高める。</p>	<p>C 自分も本当の友達になるために友達を助けていきたい。</p>	<p>○ 課題意識をもって終われるように，児童作文を紹介する。</p>

【学習活動の様子】



〈写真1 赤青円グラフを活用した対話〉



〈写真2 ワークシートを活用した変容の自覚〉

指導事例

第3学年 教材名「同じ仲間だから」 (出典)「わたしたちの道徳」(文部科学省)
内容項目 (B)「友情, 信頼」

【全体計画(別業)との関連】 (補充 ・ 深化 ・ 統合)

学校行事・体育「運動会」: 友達と励まし合ったり, 助け合ったりして練習に励む。

学校行事「一日遠足」: みんなが楽しめる工夫を考えながら活動する。

帰りの会「今日のてらすくん」: 友達のよいところを見つけて称賛する。

【指導の明確な意図】

【児童の実態】

児童は, これまで係活動で呼びかけをしたり, 帰りの会で友達のよさを発表したりするなどして友達とのつながりを感じた。また, 運動会やその練習を通して, 友達と励まし合いながら友情を育んできた。

一方, 勝負が絡む場面では自己中心的になりルールを逸脱してしまったり, 友達に配慮ができなかったりする課題もある。

本時では, 友達同士で互いに理解し合うことについての児童の考えを深めさせる。

【道徳的価値】

よりよい友達関係を築くためには, 互いに理解し合い, 協力し, 助け合い, 信頼感や友情を育てていくことができるように指導することが大切である。しかし, この段階においては, 自分の利害にこだわることで, 友達とトラブルを引き起こすことも少なくないため, 友達とのよりよい関係の在り方を考えたり, 互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりすることができるように指導することが大切である。

【主題名】 友達と互いに理解し合って

【教材の活用】

運動会の学級対抗種目で運動が苦手な光夫の話題になる。仲間はずれはよくないという思いをより一層深めるために, 主人公のとも子が思い悩む時の気持ちを考えさせる。友達の身になって考えることの大切さや, 考えが違っていても友達のためだと思えることを伝えることで相手にもその思いが伝わり信頼や友情が生まれることを, 自分の経験と重ね合わせて実感させる教材である。

【ねらい】

自己中心的な思いから仲間はずれを生みそうになる主人公の葛藤について自身の経験と重ね合わせながら考えさせることによって, 友達の身になって考えることが友達を大切にすることだと理解させ, 自分の利害にこだわらず, 相手の目線で考え行動しようとする態度を養う。

【期待される児童の意識や姿】

- ・ 自分の経験を振り返りながら, 取り得る行動について他者と議論を通して, 仲間はずれにせず協力することの難しさに気づき, 自分の利害よりも相手の立場に立つことを優先させることの意義について考えている。

【評価と指導の工夫】

- ・ グループや学級の友達と議論する中で, 道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え, 考えられるように, 判断の普遍性や可逆性, 互惠性などについて問いかける。

【教師の効果的な関わり】

- ・ ひろしの心情(弱さ)に共感させた上でとも子の心情について考えさせることで, とも子の葛藤を具体的にイメージさせる。
- ・ 自分だったらどうするかをグループで議論する学習活動を通して, 判断の根拠を明確にさせたり, 自分だったら本当にできるかを考えさせたりする。
- ・ 特別な支援を要する児童には支援員が補助発問を行い, 協力し合うことの難しさを自分との関わりで考えさせる。

【教師の主な発問と児童の意識】

(主な部分のみ抜粋)

避	主な学習活動と教師の発問	児童の意識	指導上の留意点
導入 ③	1 「友情、信頼」に関わる経験について想起する。 T 友達ってどんなものかな。 2 めあてを立てる。	C 一緒に遊ぶ。 C 助け合う、支えあう。 C 大事にしたい。 C 喧嘩することもある。	○ よさだけでなく、大事にしたいができないこともあることに気付かせ、児童の課題意識からめあての設定につなげる。
	友達を大事にするには、どんな考えが大切なのだろう。		
展開 ⑤	3 教材「同じ仲間だから」の前半部分を読み、考えていきたい問題について考える。 T ひろしはどんな考えから「休んだ方がいいんじゃないか。」と言ったのだろう。 T 光夫はどうしたいのかな。 T 返事に困ったとも子はどんなことを考えていただろう。 T 自分だったら、どうすべきだと思いますか。 ・ 自分の考えと根拠をワークシートに書く。 ・ グループで話し合う。 ・ 全体で交流する。 (誰にでもそうするかな。) (自分もそうされたいかな。) T とも子は、どんな思いから「同じ2組の仲間じゃないの。」と言ったのだろう。 4 友達を大事にするために大切な考えについて話し合う。	C 勝ちたい。 C 光夫がいると負ける。 C 光夫を心配してる？ C 光夫は頑張りたいと思っている。 C 勝ちたいけど、光夫が入るとまた負けるかもしれない。 C 光夫がかawaiiそう。 C 話し合う。ひろしにも分かかってほしい。 C みんなで出る。同じ仲間だから。 C みんなで勝たないと嬉しくない。 C 仲間はずれはよくない。 C とし子と同じ思いはさせたくない。 C 相手の立場に立つ。 C 友達の身になって協力する。 C ちがいを受け入れる。	○ ひろしの自己中心的な考えや勝利へのこだわりにも共感させることで、人間理解を促す。 ○ 自分本位な心情と光夫やみんなの身になった心情を対比させる。 ○ 議論することで、自分の判断の根拠を明確にしたり、多様な考え方に気付いたりすることができるようにする。 ○ 自分が本当にできるかと問いかけることで、仲間はずれにせず協力することの難しさを自分事として捉えることができるようにする。 ※ 道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えている。 ○ 導入に戻り、これからどんな考えを大切にしていきたいかを考えさせる。
終末 ⑦	5 自分たちが協力し合ってきたVTRを鑑賞し、自分の考えをまとめる。	C 友達のことを考えて行動したこともあった。苦手なことがある人がいても助け合いたい。	○ 別葉との関連を図り、運動会の練習や遠足で助け合ったり、遠足で誘い合って楽しくしたりしている様子を提示し、余韻をもって終える。

【板書、ノート等】



指導事例

小学校第5学年 教材名「銀のろうそく立て」(出典：学研)

内容項目 B 相互理解, 寛容

【全体計画(別業)との関連】(補充・**深化**・統合)

国語「大造じいさんとガン」：主人公の心情を立場や状況を考えながら読み取る。

図画工作「造形祭り」：互いの考えを伝え合いながら共同で製作する。

【指導の明確な意図】

【児童の実態】

本学級の児童はこれまでの学習や生活を通して、自分の考えを伝えたり、相手のことを理解し自分と異なる意見を受け止めたりしながら互いに尊重し合う姿が見られる。しかし、相手の立場を理解しないままに広い心で相手の考えを認められないことや自分に害がおよび犠牲を払う場面では寛容の態度がもてないことがある。そこで、相手の立場になって物事を考えることと状況に応じて許すことの意義について理解を深めさせる必要がある。

【道徳的価値】

寛容の価値が働くのは見解の相違がある場合であり、自分が犠牲を払う場合でも他者のために発揮される時である。

他者の過ちを許すことができるのは、自分も過ちがあると自覚しているからであり、自分に対して謙虚であるからこそ、他人に対しても寛容になることができる。それは無原則な容認(許し)ではなく、自分への厳しさと他者への誠実さが相互に受け入れ合うことで結実する。

【主題名】 広い心で相手のことを考えて

【教材の活用】

ミリエル司教は、ジャンが銀の食器を盗んだことに対し、そのろうそく立てを持っていた自分を責め、ジャンの行為を無条件に許してしまう。すべてを包み込む司教の愛の深さと、その愛にふれて心をうちふるわせるジャンの心を感じ取らせることにより、広い心で、相手の過ちを許すことの大切さを考えさせる。

【ねらい】

寛容な態度をもつ主人公の生き方について考えたことを基に、他者との対話を通して自分の考えを深め、寛容な態度をもって過ごそうとする心情を養う。

【中心となる学習活動において期待される児童の姿】

自分の経験を振り返りながら、許すことが自己犠牲を伴うものであることを理解し、他者との対話を通して相手の立場を理解し、寛容な態度をもつことの意義について考えることができる。

【評価及び指導の工夫】

グループで対話活動をしている際、議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深められるように、「問いかけ」を準備しておいたり、対話の新たな視点をもたせたりする。

【教師の関わり】

◎ 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展するように、少人数グループでの対話活動に教師が介入し、許すことの意義や実現することの難しさが伴うことに気付かせる。

教師が介入する際の留意点は、複数の子どもの考えを想定しておくこと、その考えを広げ深めるための発問を準備しておくことである。

◎ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深められるように、子どもの実態からねらいに迫るための問いを設定していく。つまりそれは、主題に迫るための問いとなる。この問いをめあてとして設定する。

【教師の主な発問と児童の意識】

(主なもののみを抜粋)

④	主な学習活動と教師の発問	児童の意識	指導上の留意点 ※評価の視点に関すること
導入 ⑤	<p>1 これまでの経験を想起する。 T 許すことで自分が損をすると感じたことはないですか。</p> <p>2 めあてを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 許すことで自分が損をするかもしれない。許すことに意味はあるのだろうか。</p> </div>	<p>C 心に傷を負ったけど仕方なく許したことがある。</p> <p>C 生きていく中では許すことは必要だけど、損することもある。</p>	<p>○ めあてを考える必然性が生まれるように「寛容」と「自己犠牲(損)」の関係に目を向けさせる。</p>
展開 ⑦	<p>3 資料を分析的に読んで、主題とかかわりのあるキーワードを挙げる。 T 許すことのよさが書かれている部分とそのことによって自分が損なわれている部分に線を引きましょう。</p> <p>4 めあてについて考える。</p> <p>○ 一人で考えて、グループで対話活動を行う。</p> <p>○ 最も納得する考えについて理由を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【教師がグループに介入した時の問いかけ】</p> <p>a 仲良くなるために許すの？ 厳しく注意しあえたほうが本当に仲良くなるのでは？</p> <p>b やさしくすれば自分は損するかも。どこまで許せますか。全てを許すことができますか。</p> <p>c 許すよさは相手のためだけにあるの？</p> </div> <p>5 自己の振り返りを行う。</p>	<p>キーワード</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・あれは貧しい人のものだったのだよ。 ・どうしてお持ちにならなかったのですか。 ・正直になるために～約束したのですよ。 等</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【グループの考え】</p> <p>a 許すと仲良くなれる。</p> <p>b 許せるやさしさをもつことができる。</p> <p>c 正直な思いが相手に伝わり悪から善に気持ちが変わるかもしれない。</p> </div> <p>C 相手の心が正直、誠実になる。</p>	<p>○ 学習問題に対する自分の考えをノートに記入させる。</p> <p>※ 自分の考えをノートに書いている。</p> <p>○ 子どもの考えを事前に想定しておき、グループの対話活動に教師が介入する。</p> <p>※ 問いをもって対話活動を進めている。</p> <p>○ 対話が停滞しているグループには次のようなかわりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな視点をもたせる。 ・ 発問の意図をわかりやすく伝える。 ・ 他のグループの情報を伝える。 <p>※ 主題にかかわる道徳的意義や心構えについて考えている。(ノート)</p>
終末 ⑧	<p>6 教師の説話を聞く。</p>	<p>C 自分の心がより広く、人の間違いや失敗を受け入れられるようになる。</p>	

【板書、ノート等】(ある児童のノート記録では次のような記述が見られた。)

めあて

味なそ許
はいんす
あ。をこ
る許すと
のするで
だくか自
うにも分
うにし分
か意れが

展開前段の考え

る手と自
かか思わ
もきうた
し。し
れく。は
なにせ意
いそ。味
かん。外
うを。あ
す相

展開後段の考え

れも、分持はる人手し正①
なくが。ちかとのく直今
い許をもし。の気じに日
が返れす持し信持たの学
ら。さ。さ。相れう。外す人習
。い。い。か。い。を。外。れ。り。で
か。い。さ。て。悪。つ。わ。ば。自
も。こ。を。り。理。か。っ。や。分
し。と。持。自。気。由。め。て。相。さ。が

【評価】

相手のことを考えていた記述から自分とのかかわりで考える姿に変容した。さらに「寛容」と「信頼」を関係付けて考える多面的・多角的な思考の高まりも見られた。

対話活動

指導事例

第5学年 教材名「この台地に水を」(出典)「郷土の先人」(鹿児島県教育委員会)
内容項目 (A)「希望と勇気、努力と強い意志」

【全体計画(別業)との関連】 (補充 ・ 深化 ・ 統合)

体育「持久走」:諦めず、目標に向かって走る。

特別活動「委員会活動」:学校のために自分の仕事をしっかりする。

学校行事「学習発表会」:友達と協力して、発表をやり遂げる。

【指導の明確な意図】

【児童の実態】

児童は、これまで自分の決めためあてを意識して学校生活を送ったり、自分なりの目標に向かって持久走の練習に取り組んだりするなどして努力と強い意志の大切さを感得してきた。

一方、委員会活動において学校のために仕事をすべきだと理解しながらも任された仕事をやり遂げられないなどの課題もある。

これらの児童の学びから、道徳科においては、くじけずに努力するために必要な考えについてまとめて考えることが大切である。

【道徳的価値】

人間として自立しよりよく生きるためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことができるように指導することが大切である。また、思うように結果が出なくて夢と現実の違いを意識することもあるが、様々な生き方への関心を高めるとともに、直面する困難を乗り越える人間の強さについて考えることを通して、積極的で前向きな自己像が形成されるようにすることができるように指導することが大切である。

【主題名】 くじけずに努力して

【教材の活用】

農作物の栽培に苦勞する父母や村人を思う気持ちから開田を決意した甚兵衛が、幾多の困難にもくじけることなく努力を続けられたわけに気付かせるために、努力を続けようとする意志を阻む要因について話し合わせる。努力と強い意志を支える考えを様々な視点から捉えたり、努力を続けたからこそ得られる達成感を実感させたりする教材である。

【ねらい】

幾多の苦難にも諦めることなく努力を続ける主人公の強い意志について、自分に置き換えて考えることを通して、困難があってもくじけずに努力しようとする心情を養う。

【本時で期待される児童の意識や姿】

- ・ 自分自身の経験を振り返りながら主人公に立ちほだかる苦難を自分に置き換えて考え、努力と強い意志を阻む要因が多様であることに気付く、他者との対話を通して、くじけずに努力することの意義について考えている。

【評価と指導の工夫】

- ・ ペアでの交流をして、登場人物を自分に置き換えて考える中で、自分なりに具体的にイメージして道徳的価値を理解できるように、これまでの経験を尋ねたり、判断の根拠やそのときの心情を分類したりする。

【教師の効果的な関わり】

- ・ 道徳スケールを使ったペアでの交流をとおして、困難を前にくじけることのある人間の弱さに共感させるとともに、立ちほだかる苦難を時系列に提示することで、努力を続けようとする意志を阻む要因の多面性に気付かせるようにする。
- ・ 発言の少ない児童や記述が苦手な児童については、終末で強い意志をもって行動する必要がある場面を具体的に例示することで、自分なりに考えを深めた内容を書けるようにする。

【教師の主な発問と児童の意識】

(主な部分のみを抜粋)

過程	主な学習活動と教師の発問	児童の意識	指導上の留意点
導入 ③	1 郷土の先人である野井倉甚兵衛に関わる学びを振り返る。 T 野井倉甚兵衛ってどんな人。何で今でも愛されているの。 2 めあてを立てる。	C 昔の農家の人。 C 野井倉台地を作った。 C みんなのために働いたから。	○ 教材への導入を図り, 社会科や総合的な学習の時間の学びから課題意識をもたせ, めあての設定につなげる。
展開 ⑤	3 教材「この台地に水を」を読み, 努力と意志を支える考えについて意見交換する。 T 自分だったら頑張り続けられますか。どこでくじけてしまいそうですか。 ・ 自分の考えと根拠をワークシートに書く。 ・ スケールに立場を表出する。 ・ スタンディングミーティングによるペア交流を行う。 ・ 全体で交流する。 T 諦めたくなることがこんなにもあるのに, 甚兵衛さんが頑張れたのは, なぜだろう。(どんな思いから頑張り続けられたのだろう。)(自分がたくさん収穫するためならここまではできるかな。) 4 努力を続けるために大切な考えについて話し合う。 T がんばりを支えるのはどんな考えなのだろう。	C くじけてしまう。 C 毎日の宿題も続かないから。 C 戦争は自分の力ではどうしようもなさそう。 C 少し努力しても何度も壁に当たると続かない。 C あきらめない。みんなの力になりたいから。 C 最後までやり遂げたい。 C 家族のため。 C 今までの人と同じじゃだめだ。 C 村の人たちに幸せになって欲しい。 C 人のためになろうとする気持ち。 C 自分を高めようとする心。	○ 出来事を時系列で提示することで, 度重なる苦難を実感させるようにする。 ○ 考えを整理するために, 書く時間を確保する。 ○ 自分だったらと考えさせ, 諦めるべきではないと思いつながりながらもくじけてしまう心の弱さに共感させることで, 人間理解を促す。 ○ これまでの経験と重ねて考えさせる。 ○ 深めの発問を通して, 自分だけでなく対他者, 対社会への多様な思いに気付くことができるようにする。 ※ 登場人物を自分に置き換えて考える中で, 自分なりに具体的にイメージして道徳的価値を理解している。 ○ 児童から出た考えを対自分, 対他者, 対社会などに分類し, 視点を与える。
終末 ⑦	5 具体的な場面を想起し, 自分の考えをまとめる。 6 通水式で多くの拍手に迎えられる野井倉甚兵衛の VTR を鑑賞する。	C だれかの役に立ちたいという考え。 C 今までの自分に負けずに自己記録更新を目指した。 C みんなのためと思って委員会を頑張りたい。 C やろうと決めたことを精一杯頑張っていこう。	○ 別葉との関連を図り, 持久走大会や学習発表会, 委員会活動などの具体的な場面を提示し, 大切にしたい考え方をもとに自らの行動を見直せるようにする。 ○ 努力を続けることによる達成感に共感させ, 余韻をもって終わる。

【板書, ノート等】

登場人物を自分に置き換えて考え, 具体的にイメージしながらくじけずに努力しようとする心を阻む要因を捉えている。

「工事中止せよ!」

進駐軍

中断

先頭に立つてだれより

(人手不足)

(燃料不足)

(戦争)

(材料不足)

↓

たくさんの費用
村議会にも相談
県の調査
国の調査
調査結果
「中止の方がよい。」
耕地整理組合長に
県庁や国の役所へ
自分の家に帰るのは月
二、三日

外国人の人に
中止と言われたら
私もさぞあき
らめると思っ
た。でも、あ
んなに言いか
えさせる
ゆえに私には
悔いも思っ
た。

自分の家に月に
三日しか帰れ
ないのは私にと
ってすごくき
ついです。

たくさんの費用
がつかかると思
う心が折れる。
ヤキがおい
やられる
中止なんてい
なり言われたら
やるよとえさ
せなく
す。

「終った後の気持ち
ちを大切に
した。」

「踏ん張るには
足が水
が枯れて
困る。でも、
私は豊かな
笑顔になっ
てほしい。」

「井の中の
蛙は、井
の中の蛙
を知らない
から。」

「なんでも
人に考え
てもらう
から。」

指導事例

小学校第6学年 教材名「どろだらけのスパイク」

(出典 学研)

内容項目 C 規則の尊重

【全体計画(別業)との関連】 (補充 ・ 深化 ・ 統合)

学校行事「修学旅行」:公共の場でみんなが気持ち良くなるようにマナーを守ることを大切に
にする。

総合的な学習の時間「地球の未来を考えよう」:環境問題の原因や対策について調べて分
かったことを元に、これから地球環境を考えたルールを守ることを大切にする。

【指導の明確な意図】

【児童・生徒の実態】

今までに子どもたちは、修学旅行
で公共の場や乗り物でマナーを守っ
た行動の大切さについて学んでいる。
しかし、集団ではマナーを意識し
て行動できていた子どもたちも、普
段の生活の場で自分一人だけだと自
信をもってマナーを守れていると言
えない課題がある。
普段の生活で自分一人でもマナー
を守った行動ができるようにその価
値についての理解を深めたい。

【道徳的価値】

集団で社会生活をする上できまり
や基本的なマナーや礼儀作法、モラ
ルを守る心を育成することが必要で
ある。また、自他の行動などについ
て考えを深め、他人の権利を理解、
尊重し、自分の権利を正しく主張す
るとともに、自分に課された義務に
ついてしっかりと果たそうとする態
度を育成することが大切である。

【主題名】みんなが気持ちよく生活するために

【教材の活用】

本資料は、野球部の子どもたちがコンビニに入る際に汚れたユニフォームの泥で
店を汚してしまってもお店の人が掃除をすればいいという考えと、高校生が店の前
で食べた後のごみを置きっぱなしにしていることは同じ自分勝手な行動だと気づ
き、汚さないように考えて行動する話である。みんなが気持ちよく生活するた
めには大切なことは何かについて考えさせたい。

【ねらい】

マナーについて考える問題場面で、自他の権利や果たすべき義務について話し合う活
動を通して、だれもが気持ちよく安心して社会生活を送るために、他人に対する気配り
を大切にしようとする心情を養う。

【中心となる学習活動において期待される児童の姿】

自分の権利を主張するだけでなく、他人の権利も
大切にし、相手に気を配ることによってその相手だ
けでなく、自分自身にもマナーを守った満足感が得
られることに気付いている。

【評価と指導の工夫】

ネームカードを活用して自分の考えを明示し、友
達の意見と比べ、その理由についても話し合わせる
ことによって、多面的・多角的に価値を捉えさせる。
ワークシートを活用して、この学習を通して感じ
たことから自らの生活を見直させる。

【教師の効果的な関わり】

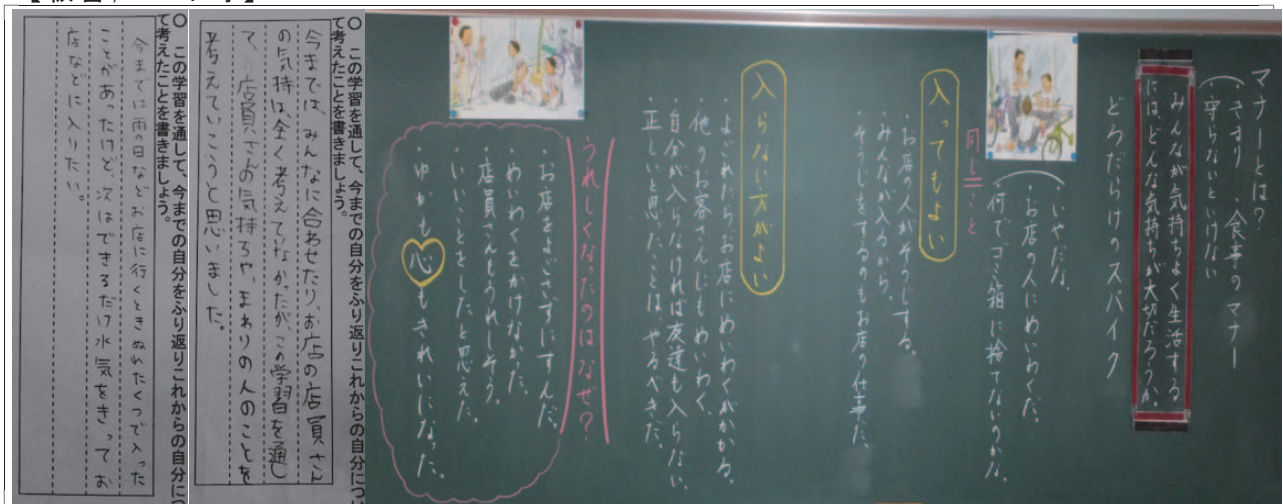
問い返しの発問の活用

子供たちの意見に対して「○
○は、どう思っただろうか？」
という共感的な発問や「なぜ、
そう思ったの？」という分析的
な発問などを活用して子ども
たちの考えをより深めていく。

【教師の主な発問と児童の意識】 主な部分のみを抜粋 ※評価の視点に関すること

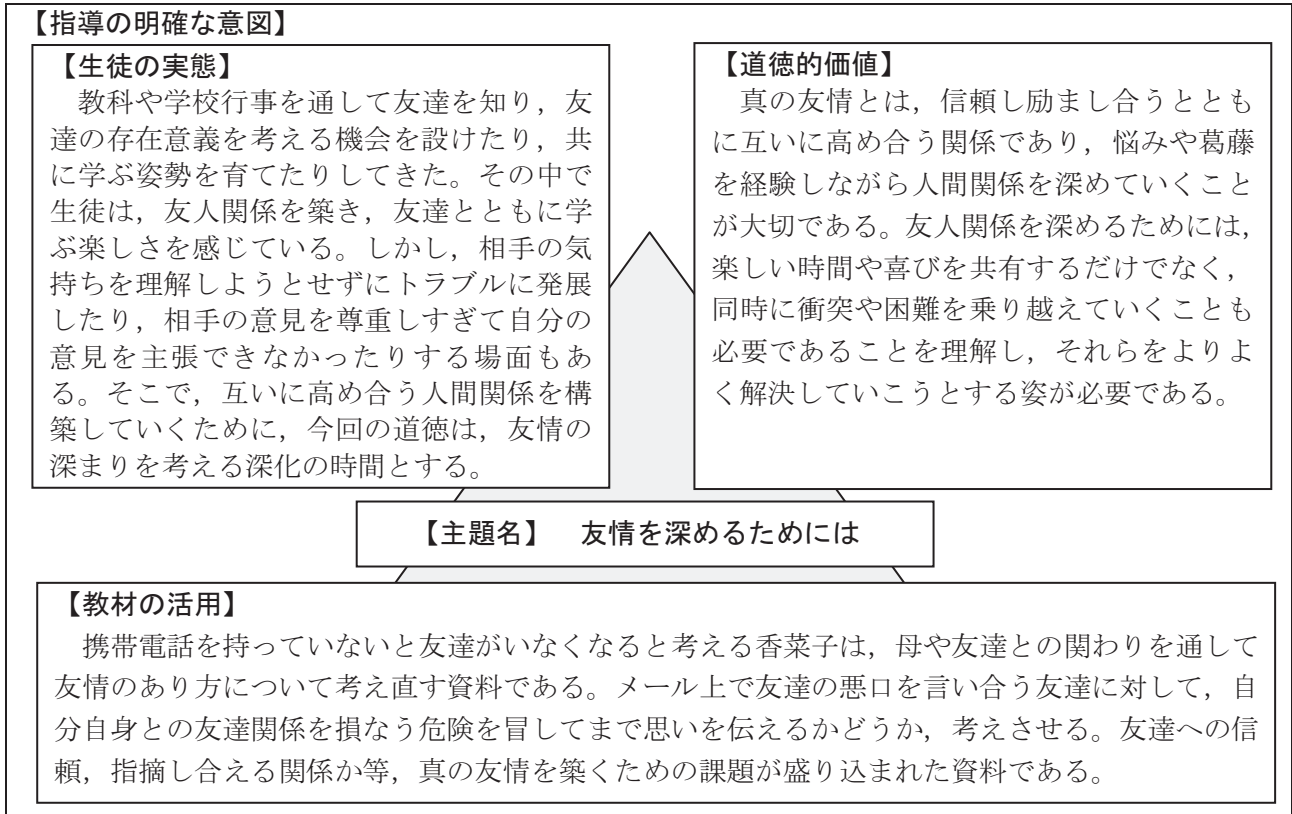
分	主な学習活動と教師の発問	児童の意識	指導上の留意点
導入③	1 マナーについて考える。 2 めあてをたてる。 みんなが気持ちよく生活するにはどんな気持ちが必要だろうか。	C きまり C 食事のマナー C 守らないといけないこと	○ 生活でよく使われるマナーについて思い出し、その意味を考えることでめあてにつなげる。
展開前半⑦	3 教材「どろだらけのスパイク」を読み内容をつかむ。 4 泥だらけのまま店に入るか入らないか、自分ならどうするか、その理由も考える。	C お店の人がきれいにしてくれるからいい。 C みんなが入るからいいかな。 C 一人で帰るのはいやだ。 C 店に迷惑がかかる。 C 悪いと思ったことはしてはいけない。	○ 挿絵を使って話の内容や登場人物について確認し、問題場を焦点化する。 ※ 自分の考えをネームカードを使って明示させ、他の意見の児童と交流させることで、多面的・多角的な見方にふれさせる。
展開後半⑩	5 だれかにほめられたわけではないのに、なぜ、「ぼく」は、うれしい気持ちになったのだろうか。	C 店を汚さずに、自分でいいことをしたと思えたから。 C 店員さんが喜んでくれていると感じられたから。 C 店の前を汚していた高校生たちと自分たちとは違って迷惑をかけなかったから。	○ よくないことだとわかっていてもしてしまう、誰にでもある心の弱さにも共感させる。 ○ 他人へ気を配ることによって相手も自分も気持ちよくなることに気付かせる。
終末⑤	6 学習したことを振り返り自分の考えをまとめる。	C 他の人への気配りを大切にすることがマナーを守ることにつながるんだな。 C 学校内や校外でも生かせる場面がありそうだ。	※ 今までの自分をふり返らせ、見直させる。 ○ 具体的な生活場を挙げ、道徳的实践への意欲を高める。

【板書、ノート等】



指導事例	中学校第1学年 教材名「心のつながり」 (出典)『かけがえのないきみだから』(学研教育みらい)
	内容項目 B 友情, 信頼

【全体計画(別業)との関連】 (補充(深化)・統合)
 文化祭「学級劇」: 友達をテーマに学級劇を作成し, 友達や親友と友達の違いについて考える。
 音楽「混声合唱へのステップ」: パート練習をグループで行い, みんなで練習方法を考えていく。
 英語「わたしの好きなこと」: 自己紹介を聞いたり, 好きなものを尋ねたりすることで相手を知る。



【ねらい】
 楽しみを共有することに魅力を感じつつも友達関係の大切さや不安定さに悩みを抱える主人公の思いをグループや自分で考える活動を通して, 信頼に支えられた友情の尊さについての理解を深め, 互いに励まし合い, 高め合いながら, 心から信頼できる友達関係を築こうとする力を培う。

【中心となる学習活動において期待される生徒の姿】
 主人公の悩みや葛藤をグループや個人, 学級全体で考えたり語りあったりする活動を通して, 真の友情を築いていくためには, 仲良くするだけでなく, 相手のよくない所を指摘する勇気が必要であり, 同時に相手側にはそれを受け入れる姿勢が大切であることに気付く。



【評価と指導の工夫】

- 発表や机間指導中の教師との対話による聴き取りと考えの深化
- ワークシートの工夫
 - ・ 生徒が考えたことや, 思いを見取る
 - ・ 図や数値で道徳の時間を生徒が自己評価する
- グループでの生徒同士の意見交換

【教師の効果的な関わり】

- グループでの意見交換や 1人で考える時間に机間指導で生徒に語りかけ, 考えや思いを引き出すとともに, 聴き取りを行う。
 語りかける際は, 生徒が考えた思いの裏側にある理由や, 自分だったらどのようにするかを考えさせるとともに, 反対意見等も提示し, 深い思考になるように声掛けをする。
- ワークシートに生徒の考えを文や図・数値を使って記入させ, それらを集めて評価の参考にする。

【教師の主な発問と生徒の意識】

④	主な学習活動と教師の発問	生徒の意識	指導上の留意点 ※評価の視点に関すること
導入 ⑤	1 自分にとっての友達の存在を考える。 T 友達を一言で表すと？ 2 学習課題を立てる。 友情を深める上で大切なことは何だろうか。	S 一緒にいる，仲良し， 家族みたい	
展開 ⑧	3 教材を読む。 4 香菜子の気持ちを中心に考える。 T 「ケータイがないと友達がいなくなっちゃうよ。」と言った時に香菜子が考えていることは何だろうか。 T 寝つけない夜，香菜子はどんなことを考えたのだろうか。 T 香菜子は一つの思いを抱いているがどんな思いだろうか。 T その思いを3人に伝えようと思ったのはなぜだろうか。 T 香菜子は思いを伝えることに戸惑いはなかったのだろうか。 5 めあてについて考える。 T 友情を深める上で大切なことは何だろうか。	S お願い，買って。一人になりたくない。なんで買って欲しくないの？友達がなくなることはないと思うけど…。 S 仲よしだと思っていたのに。わたしもメールしたい。わたしの悪口も言われているの？本当に携帯はいる？ S 悪口は良くないと伝える。携帯は買わないと伝える。 S このままだと友達が減るから，けじめ，だめなことだから，ちゃんと向き合いたいから，ストレスだから，腹が立ったから S あったと思うけど，正直に言いたい。嫌われたくないと思う。 S たくさん関わる，本当の自分である，一定の距離間を保つ，相手の気持ちを考える，互いを思いやる	○ グループトーク 吹き出しに意見を記入し，黒板に掲示する。 ※ 自分の意見を持ち，グループの意見も聞き入れる。 ○ 一人一人の考えに対して「どうして？」「なぜそう思うの？」等と声掛けをし，考えを深めさせる。 ※ 自分だったら…と考え，理想と現実の差やそこにある不安を考えさせる。 
終末 ⑦	6 「私たちの道徳（P60）」を読む。 「友情は成長の遅い植物である。」 7 学習したことを振り返る。		○ ワークシートを回収し，評価の参考にする。


【板書，ノート等】

① 振り返り


相手の気持ちも考えることが大切だと思える。何かあったら，私は人に言わない方がいいことはいって，言わないことも大丈夫なことはいって，言わないけど，みんなは言わないことはいって，少しづつくりした。

自分と同じような気持ちのところがあつた。友情を深めるために自分の意見を伝えるように言えるような関係を作りたい。


② 自己評価



90%
本日の達成

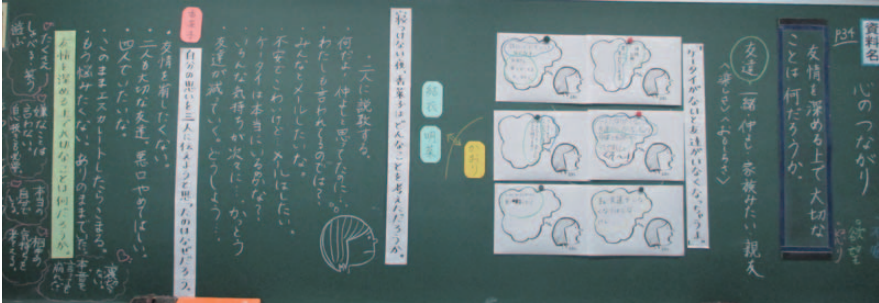


70%
本日の達成



30%
本日の達成

授業で何を考えたか，生徒の振り返りと自己評価の内容が合うか等を教師がワークシートで見取った後，気になる生徒へは声掛けをする。



指導事例

中学校第1学年 教材名「席がえ」
(出典) 「明日をひらく」(東京書籍)
内容項目 C 「よりよい学校生活 集団生活の充実」

【全体計画(別業)との関連】(補充・**深化**・統合)

- ・学校行事「集団宿泊学習」: 集団における自分の役割を理解し、進んで役割を果たそうとする心を育てる。
- ・音楽 「合唱コンクール」: 学級生徒全員の参加により、自主性や協調性を養い、学級作りや学級活動に役立とうとする態度を育てる。

【指導の明確な意図】

【生徒の実態】

全般的に、ルールは守らなければならないと意識している生徒が多く、比較的落ち着いた態度で学校生活を送っている。一方で、友人との関係に馴れ合いが生じ、トラブルに発展する場面が見られたり、集団生活の中で、各人の果たす役割について安易に考えてしまい、集団のルールを自分の都合のよいように解釈してしまう場面も見られたりする。本時では、集団の一員としての行動のあり方について、考えを深めさせる。

【道徳的価値】

人間は一人では生きていけず、さまざまな集団や社会の一員として生活をしている。その集団生活を向上させるには、各人がその成員として役割と責任を自覚して勝手な行動を自制できるようになることが求められる。また、一人一人が集団への帰属意識を高め、自己有用感を体得するために、互いの人間関係を大切にすることを自覚することが必要がある。

【主題名】 集団生活の向上

【教材の活用】

クラスの席がえは、友人との関係が学校生活の大きな要素である中学生にとって、関心の高い一大事である。本教材は席がえで、級友がクラスのきまりを無視して仲良し同士で座る。これを「私」が、席がえの意義を主張して直させるというものである。馴れ合いの気持ちが強くなっている折、本教材を通して、集団生活の中における自分自身の言動を振り返らせるとともに、集団生活の向上に努めようとする態度を育てたい。

【ねらい】

きまりの意義を理解し、これを尊重して、集団生活の向上に貢献しようとする態度を育成する。

【中心となる学習活動において期待される生徒の姿】

ルールは守らなければならないということを再確認すると共に、ロールプレイを行うことで、ルールが守られていない状況を放任せず、自分の気持ちを伝えることが集団としての高まりにもつながることを理解する。

【評価と指導の工夫】

「私」「並んで座りたかった二人」「しかたなく席を譲った人」の三者の立場で、ロールプレイを行い、気まずい体験をさせたいうえで、生徒自身に「どうすればよかったのか」を考えさせ、その有効性を再度ロールプレイで検証させる。

【教師の効果的な関わり】

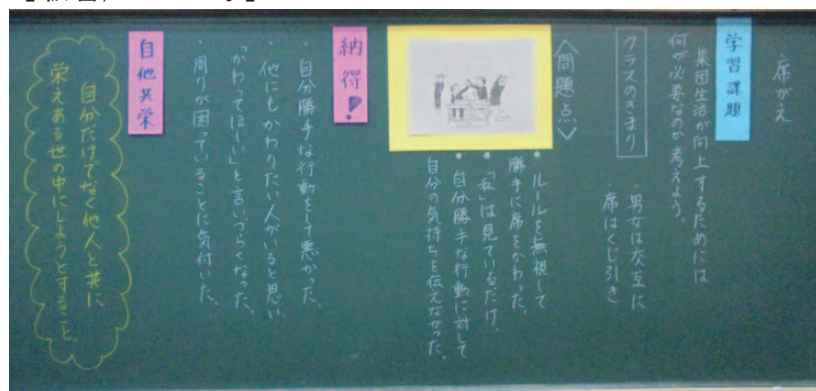
- 問題の場面をロールプレイした後「この場面では、何が問題なのだろう。」と発問することで問題点を多面的・多角的に考えさせる。
- 三者の立場で役を演じたうえで、それぞれはどうすればよかったのか、自分なりに具体的なイメージをもって解決策を考えさせる。また、その意見をグループ内で共有させる。

【教師の主な発問と生徒の意識】

(主な部分のみを抜粋)

過程	主な学習活動と教師の発問	生徒の意識	指導上の留意点
導入 ③	1 学習課題をを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 集団生活が向上するためには何が必要なのか考えよう。 </div>		○ 日常生活を振り返ら提示し、学習の見通しをもたせる。
展 開	2 教材の前半を読み、4人一組になってロールプレイをして、問題点について考える。 T 「私」「並んで座りたかった二人」「しかたなく席をゆずった人」の役になって、それぞれの人はどんな気持ちになったか考えてみよう。 T この場面での問題点は何だと思えますか。	S なぜ、きまりを守れないんだ？ S これからの1ヶ月間は楽しそうだな。 S あの席が良かったのに、私のことも考えてほしい。 S 席をかかわりたいと言った人のルールを無視した自分勝手な行動。 S 「私」は見ているだけで何も言わなかった。 S わがままを放置してしまい、自分の気持ちを伝えることができなかったこと。 S 「クラスで決めたルールは守ってほしいんだ。偉そうに言ってごめんね。」	○ 真剣にロールプレイをする雰囲気となるようにする。 ○ 三者の立場に立って、ロールプレイを行ったうえで、それぞれの思いを整理させる。 ○ ロールプレイで三者の立場に立ったことで、三者の立場からの問題点について考えさせる。 ※ ルールを無視した自分勝手な行動の他に、問題点はなかったか、多面的・多角的に考えようとしているか。 ○ 実際、級友に伝えるセリフとして考えさせる。 ※ 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えているか。
	④ T 自分の気持ちを伝えるために、勝手に席をかかわろうとする人も納得するというセリフを考えてみよう。	S 「クラスで決めたルールは守ってほしいんだ。偉そうに言ってごめんね。」	○ 考えたセリフの有効性をロールプレイで検証させ、気付いた点をグループ内で共有させる。
終末 ⑦	3 再度4人でロールプレイをしてみて、1回目との気持ちの変化について考え、グループで気付いた点を発表する。	S 納得いくことを言われて、自分が恥ずかしい気持ちになった。 S 自分の気持ちをしっかりと伝えれば相手もわかってくれる。	○ 考えたセリフの有効性をロールプレイで検証させ、気付いた点をグループ内で共有させる。
	4 教材の後半を読み、クラスのために何ができるか、自分にできることを考える。	S ルールを守り、他人も自分も嫌な気持ちにならないようにする。	○ 集団生活において、利己心や狭い仲間意識を克服し、共に高めようとすることが大事であることに気付かせる。

【板書、ノート等】



三〇の場面では何が問題だったと思いますか。
 並んで座りたかった人がルールを破ったこと。
 しかし、そこでその場を注意しなかった。私には問題がなかった。
 四 自分の気持ちを伝えるために、勝手に席をかかわろうとする人も納得するということについて考えてみよう。
 「席をかえよう前には、勝手に席をかかわるといふ約束をしていたし、自分以外にもたくさんかわりたい人がいるんだから、私も席を勝手にさげよう。
 五 ちうと座って、座ってこんな気持ちになったか書いてみよう。
 六 他もいろいろかろうがまんじよう。
 七 他にわたさんかわりたい人がいるんだと思ひ、かわってほしいとさげつらくなつた。
 八 席をかかわりたい人がいるんだと思ひ、かわってほしいとさげつらくなつた。
 ルールを守ってほしい。
 であら、持ちを伝えれば分かってくれた。